



令和4年度 福島県立須賀川支援学校郡山校 学校経営・運営ビジョン 最終評価

校訓
健康・友愛・感謝

児童生徒像
・明るく 強く 生きる人
・自ら学び 考える人
・心豊かで 思いやりのある人

教育目標
○ 生命の大切さを知り、希望をもって、たくましく生きる人を育てる。
○ 自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動できる人を育てる。
○ 感謝の心を育み、信頼と敬愛に満ちた思いやりのある人を育てる。

学校像
・みんなが笑顔で、毎日、安心して登校できる学校
・将来に希望をもち、主体的に学ぶことができる学校
・地域住民や保護者から信頼され、期待される学校

教員像
・子ども一人一人の良さや個性を認め、伸ばす教員
・指導力向上のために、常に自己研鑽に励む教員
・強い使命感と高い倫理観をもって職務に精励する教員

< 今年度の努力目標 >

一人一人の病気や心身の状況に応じて、安心して学べる環境や教師との信頼関係を構築しながら
学習内容や方法を工夫して設定し、学びに向かう力、社会の中で適応できる力の育成に努める。

各種計画 目標

学部目標・学級目標

健康 **体**
明るく 強く 生きる人
病気を理解し、健やかな体の育成をめざします
○健康で安全な生活の充実【中間:A, A, A 最終:A, A, A】
○医療と連携した指導の充実【中間:A, A, A 最終:A, A, A】

友愛 **知**
自ら学び 考える人
教師の専門性を高め、確かな学力の育成をめざします
○学びに向かう力・基礎学力の育成【中間:A, A, A 最終:A, A, A】
○病弱教育の専門性の向上【中間:A, A, A 最終:A, A, A】

感謝 **徳**
心豊かで 思いやりのある人
豊かな心の育成と豊かな生活の実現をめざします
○地域社会の中で必要な基礎的な能力の育成【中間:A, A, A 最終:A, A, A】
○キャリア教育の充実【中間:A, A, A 最終:A, A, A】

入学

小学部

転入出

中学部

卒業

進路先

○健康で安全な生活の充実
<保健部>
・集会活動に参加できない児童生徒に対しても、保健に関する資料を配付して指導を行いました。
・企業と連携した食育指導を11月に実施し、多くの児童生徒が参加して食の大切さなどを学びました。

○医療と連携した指導の充実
<保健部>
・保護者と主治医と共通理解を図り、緊急時の状況判断基準や発作時の対応、服薬の変更による留意事項などを確認しながら日々の体調管理に努めることができました。
・年2回学校保健委員会を開催し、学校医、学校歯科医、学校薬剤師から、本校の健康課題や取り組みについて指導を受け、保護者へも情報提供することができました。

○学びに向かう力・基礎学力の育成
<小学部>
・児童の病状や登校状態に合わせて、各教科等の学習内容の関連付けを図ったり、オンライン授業をしたりしながら工夫して指導を行いました。
<中学部>
・生徒の不安や悩みを十分聞き、一緒に考えて解決方法を提案することで安心感を高めるとともに、自立活動との関連を図りながら認知特性等に配慮した授業づくりを行いました。

○病弱教育の専門性の向上
<研修部>
・宮城教育大学の植木田教授を迎えて事例検討会をオンラインで実施したり、情報部と連携してICTを活用した授業づくりに関する研修を行ったりしながら専門性の向上に努めました。

○地域社会の中で必要な基礎的な能力の育成
<小学部>
・自分の興味・関心や得意な活動を通して相手とかかわる方法を教師と考えながら、行事などを通して中学部の生徒や教師とのコミュニケーションを図ることができました。
<中学部>
・登校日数が少ない生徒に対しても、活動時間を調整したり、活動内容を教師と共に確認したりしたことで、見通しを持って安心して行事や体験的な活動に参加することができました。

○キャリア教育の充実
<指導部>
・「進路の手引き」を活用して実態に応じた指導を行ったり、中学部生徒を対象に職場体験・見学学習を実施したりしながら、進路に対する関心を高めることができました。

センター的機能の充実 ～ 地域のニーズに応じた指導の充実をめざします ～ 【中間:A, A, A 最終:A, A, A】

○地域支援センターさくらぎ
<地域>・地域支援アドバイザーや各学部と連携しながら、地域のニーズに応じた相談支援や就学相談を実施することができました。また、地域への啓発活動を継続して行ったことで、令和6年度の転入学に関する相談が2件あり、適正就学に向けた早期からの相談につながることができました。
<校内>・スクールカウンセラーから校内での相談を基に児童生徒や保護者に対する指導助言を受けたり、スクールソーシャルワーカーから地域資源の活用方法について話を聞いたりすることを通して、全職員で共通理解を図りながら指導を行うことができるように努めました。